

令和 7 年度

専門学校仙台総合医療大学校

自己評価報告書

令和 8 年 6 月 1 5 日（月）

専門学校仙台総合医療大学校

職業実践専門課程

学校関係者評価委員会

令和 7 年度 項目別の自己評価表 [専門学校仙台総合医療大学校] R8. 4. 1 現在

【教育目標】

専門学校仙台総合医療大学校は、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士を養成し、社会および地域社会に貢献できる高度な専門職の育成を目指します。学生には、専門知識と技術の習得にとどまらず、心に寄り添った支援ができる高い人間性と倫理観を培います。また、医療専門課程においてはチーム医療の重要性を深く理解し、多職種との連携を通じて、質の高い医療を実現する能力を養成します。

【事業方針】

令和 7 年度、開設 18 年を迎える仙台総合医療大学校は国家試験合格率も安定し、入学対象者から徐々に信頼を得はじめています。少子化が進む中、施設充実度に加え教育力が認められ始めた令和 7 年はそれらのことを更に推進させるべく以下の内容を事業方針として学校運営に邁進してまいります。

- ① 仙台総合医療大学校は学生への教育に力を入れることは勿論のこと、併せて地域の方々への講座の開催を実現してまいります。
- ② 仙台総合医療大学校では、設置する 5 学科すべてが国家資格取得を目標に学修に励んでおり、人間教育と並行し学園のキャリアカレッジ構想に即した人材の養成に今年度も取り組んでいきます。
- ③ 学生は医療従事者の卵として自覚を持ちながら学校生活に取り組んでくれるよう教職員も学生の見本となるべく生活面に自覚を持ちながら学校生活はもちろんのこと私生活面でも自覚を持った行動をとります。
- ④ 財政運営の基盤ともなる学生募集にスタッフ全員でかかわっていきます。
- ⑤ 開設 18 年目を迎える総合医療大学校の教育機材の見直しを昨年度からの継続事項として実施してまいります。
- ⑥ さまざまな国家試験対策を講じて全学科合格率 100%を目標に日々の学修を行っていくと共に学生そして教職員が居心地の良い、尊敬しあえる教育の場を作っていきます。
- ⑦ 医療系の新科を新設すべく研究調査を行ってまいります。
- ⑧ 教育する場の基盤になる環境整備に万全を尽くします。

【令和7年度自己評価】

1. 対象期間

令和7年4月1日～令和8年3月31日

2. 評価方法

令和8年3月に学科ごとの評価および意見を出し、学科長会議で検討し学校全体の自己評価表として提出する。

3. 各評価項目の達成および取り組み状況

(1) 教育理念・目標 適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

NO	評価項目	R6 評価点	R7 評価点
1	理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野における職業教育の特色は何か)	4	4
2	学校における職業教育の特色は何か	4	4
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	4
4	学校の理念、目的、人材育成像、特色、将来構想などが学生保護者等に周知されているか	4	4
5	各科の教育目標、人材育成像は、科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	4

①現状と課題

- 1: 令和7年4月より専門学校仙台総合医療大学校はディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを策定したことにより、どのような人材育成を行うのかをより明確に表現してきた。
- 4: 入学前のオープンキャンパスにて志願者へ確実に伝えること、また入学後の保護者説明会においても本学の理念を伝えるなどの取り組みを行った。
- 5: 理学療法科、作業療法科、言語聴覚科、歯科衛生科という医療系学科を掲げる本学は、多職種連携やチーム医療を意識した教育内容の実践が可能である。令和7年度は多職種連携授業として、学科を超えて学生同士が教えあう授業展開を行った。学生の反応の中には「他の職業イメージがついた」「自分の目指す職業特性をどのように表現し伝えるかが難しかった」など将来チームの一員として働く多職種を理解するきっかけになったようである。

②今後の改善方法

- 5: 今後は総合的な医療資格養成校としての強みをさらに生かし、多職種連携授業の質や回数の見直しを必要に応じて実施し継続していく。

③特記事項

多職種連携授業については本校パンフレットP4に5つの強みとして掲載。また随時インスタグラムやブログで情報発信を行った。

(2) 学校運営

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

NO	評価項目	R6 評価点	R7 評価点
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	4
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	4
3	運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	4
4	人事、給与に関する制度は整備されているか	4	4
5	教務、財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	4	4
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	4
7	教育活動に対する情報公開が適切になされているか	4	4
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	4

①現状と課題

1・2：少子化の影響もあり私立学校を取り巻く環境は年々厳しくなっているが、社会に貢献できる人材育成を目標に事業計画を立案している。

8：現在学内で使用している学生管理システムが旧体制であるため、データ管理に改善が必要であった。

②今後の改善方法

8：学内情報システムについて令和8年度から新システムを導入し、学内IT委員会を中心として学生管理、業務管理等の効率化を図っていく予定である。

③特記事項

特になし

(3) 教育活動

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

NO	評価項目	R6 評価点	R7 評価点
1	教育理念等に沿った教育課程の編成実施方針等が策定されているか	4	4
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	4
3	科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	4
5	関連分野の企業関連施設等、業界団体等の連携により、カリキュラムの作成見直し等が行われているか	4	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技実習等）が体系的に位置づけられているか	4	4
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	3	3
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	4
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	4

10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる用件を備えた教員を確保しているか	4	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するマネジメントが行われているか	4	4
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	4
14	職員の能力開発のための研修が行われているか	4	4

①現状と課題

3：各科指定規則に則りカリキュラムを制定しているが、時代や社会のニーズを鑑み、カリキュラム構成の変更を検討する必要があるため今回は評価を3とした。言語聴覚科においては指定規則の変更があることから見直しを行っていく。

7：授業評価については限局的に一部で実施されているにとどまり、令和6年度の課題でもあった。令和7年度も体系的実施までには至らず継続課題となっている。

②今後の改善方法

3：教育課程編成委員会でのご意見を参考にしながら、1年次から最終学年までのカリキュラムマップの整備や学年ごとの科目配置の検討を令和8年度に行い、必要に応じてカリキュラム再編を行っていく必要がある。

7：令和8年度の大きな課題として全科目の授業評価の実施があげられる。評価方法を全科統一し体系的に実施できるシステムを構築する。またその評価結果も適切に教員にフィードバックされる仕組みをつくり、教育の質の向上に努めていく。

③特記事項

言語聴覚科においては令和6年度に指定規則の改正により3学年が完了する令和8年度には6名の常勤専任教員が必要となり、新たな教員確保が必要（令和9年まで猶予）。

（4）学習成果

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

NO	評価項目	R6 評価点	R7 評価点
1	就職率の向上が図られているか	4	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4	4
3	退学率の低減が図られているか	3	3
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	4
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	4

①現状と課題

1：令和7年度にははじめて合同就職説明会（理学・作業）を学内で開催し、多数の企業様に参加いただいた。早期から学生の就職活動に対する意識向上を図ることができ、早期内定に繋がった。

2：令和7年度卒業の理学療法科、作業療法科、歯科衛生科については国家試験合格100%を達成し就

職率も 100%決定した。また 7 年度で休科となるこども科も最後の卒業生を排出し就職率 100%の支援を実施することができた。

3:退学率については、定期的な学生面談でのリスクの早期発見、低学力者への個別支援など行うことにより、年々改善してきているが令和 7 年度は 6.0%と目標値である 5.0%は達成できていない。

②今後の改善方法

2:令和 8 年度は言語聴覚科が初の国家試験受験、卒業生輩出となるため、国家試験対策や就職活動など、現在まで蓄積した他学科の実績と経験をもとに学生指導にあたっていく。

3:退学率の低減に向けては、引き続き定期個別面談の実施と、日常的な学生観察から学習意欲低下傾向を早期に把握し早期対応を徹底していきたい。また学力不振の学生には個別課題対応など個に向けた教育支援も充実していく。

③特記事項

特になし

(5) 学生支援 適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

N0	評 価 項 目	R6 評価点	R7 評価点
1	進路就職に関する支援体制は整備されているか	4	4
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4	4
3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	4
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	4
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3	3
6	学生の生活環境への支援は行われているか	4	4
7	保護者と適切に連携しているか	4	4
8	卒業生への支援体制はあるか	3	3
9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	4
10	高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	4

①現状と課題

1・2:学生相談については就職活動を総括して担当する専属の就職担当課を設置するなど体制整備がなされている。

4:看護師の資格を持つ職員が学科を超えて学生の健康・心理面の相談に乗っており、定められた健康診断も定期的の実施し情報共有を図っている。

5:本学では学生の課外活動は行われていないため、支援体制は整備されていないがニーズがあれば学生課で対応をしていく。

8:卒業生への支援として令和 7 年度は同窓会発足式を開催した。

②今後の改善方法

8:令和 8 年度は同窓会をきっかけにして卒業生に対してのリカレント教育も含め、教育支援や再就職支援を実施していきたい。

10：キャリア教育の一環として高等学校における職業理解ガイダンスにも積極的に参加し、医療系への進路選択の一助となるよう働きかけを行っていきたい。

③特記事項

特になし

(6) 教育環境

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

NO	評 価 項 目	R6 評価点	R7 評価点
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	3
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	4
3	防災に対する体制は整備されているか	4	4

①現状と課題

- 1:学内のインターネット環境整備が遅れており、動画などの視覚的教材が利用しにくいことは昨年から継続課題である。
- 2:学外で実施される実習については、体制の整った実習施設を委託しており、実習期間中の教員訪問などを必ず実施するなどの体制を整えている。また実習開始前には指導者と教育内容の確認を行う指導者会議なども行い、施設側の教育体制を整えることも依頼している。
- 3:防災については危機管理委員会が主となり避難訓練、付帯設備の点検確認を行っている。また学生には震度5以上の場合の安否確認の徹底などを行い安全に関する意識の向上にも努めている。

②今後の改善方法

- 1:学内のWi-Fi環境の整備は急務となっているため令和8年度以降に予算化したい。

③特記事項

特になし

(7) 学生募集

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

NO	評 価 項 目	R6 評価点	R7 評価点
1	学生募集活動は、適性に行われているか	4	4
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	4
3	学納金は妥当なものとなっているか	4	4

①現状と課題

- 1:菅原学園本部企画広報室が主となり、学内の入学相談課の担当職員を中心に学生募集を行っている。令和7年度は外部進学業者を講師とした広報活動に関する職員研修を行い、オープンキャンパスやガイダンス等での効果的な広報活動について理解を深めた。令和8年度入学生募集において、残念ながら理学療法科、作業療法科、言語聴覚科で定員充足とならなかった。

②今後の改善方法

- 1:学生募集活動においてオープンキャンパスの来校者の増加を目指し、各科の教育成果を正確に伝え理解して頂けるよう内容の再検討を図る。また教員が直接進路指導部に出向き、本校の教

育成果を説明する訪問活動を次年度は実施していく。

③特記事項

特になし

(8) 財務 適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

NO	評 価 項 目	R6 評価点	R7 評価点
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	4
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	4
3	財務について会計監査が適当に行われているか	4	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4	4

①現状と課題

- 1：R6 年度より事業活動収入は微増したが、人件費の支出が多くなってしまった。
- 2：毎年度末に次年度活動費の予算を計上し、計画的に執行されている。
- 3：毎年 5 月に会計監査が滞り行われ、理事会にて報告・承認がなされている。
- 4：本校 HP に学校基本情報として公開されている。

②今後の改善方法

学生募集をさらに強化し財源の確保に努めることと、必要な事象を精査し計画的な支出を行う。

③特記事項

特になし

(9) 法令等の遵守 適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

NO	評 価 項 目	R6 評価点	R7 評価点
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	4
3	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	4
4	自己評価結果を公開しているか	4	4

①現状と課題

- 1:各種法令に基づき、必要な規則やマニュアルは菅原学園として制定し、常に改正、意見の聴取を行いコンプライアンスを意識して教育活動を行っている。
- 2:学生の個人情報については、提携している実習施設に対しても同様に保護を求めるなど対策をとっている。
- 3・4:自己評価についても適切に実施しホームページ上で公開している。

②今後の改善方法

- 1:継続してコンプライアンスの遵守に努めていく。
- 3・4:学校教育法の改正にともない高度専門士の称号が付与される専門課程（本学は理学療法科と作業療法科）は 5 年以内に 1 回第三者評価を実施することが義務化され、他の専門課程も自己評

価を毎年実施することとなる。これまで通り、学内での自己評価を適切に実施し問題点を改善していく必要がある。

③特記事項

特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

NO	評価項目	R6 評価点	R7 評価点
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	4
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3	4
3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	4

①現状と課題

昨年度と比較し大きく改善した項目になる。

1・3:令和7年12月にマイナビ仙台レディースと連携契約を締結した。これは選手のトレーニング・リハビリテーションの一環で本学の実習室内スポーツジム施設を利用することと、本学の学生とトレーナーとの交流の機会を創出することを目的としている。また宮城県介護福祉士の研修会会場としての施設利用、医療系研修会の会場としての施設提供を行うなど、地域資源としての社会貢献を行った。さらに介護予防事業における講師（言語聴覚科・理学療法科）、法人内高齢者施設での介助法研修派遣（理学療法科）など積極的に外部の研修への講師派遣を行った。歯科衛生科では仙台市、仙台市歯科医師会、東北大学歯学部による若者へのデンタルフロスの普及活動（ハローフロスプロジェクト）に協力し、本校の理学療法科・作業療法科・言語聴覚科の学生に対し周知活動を行った。

2:宮城大学やJCHO仙台病院との連携により、地域イベントへの学生ボランティア参加（言語聴覚科）、地域防災訓練への参加企画（熊出現にて実現できず）も行った。

②今後の改善方法

2:学生に対してボランティア活動の情報を提供し、積極的参加を促していき、学外における活動を通し、人間力を高めていく仕掛けを構築したい。

③特記事項

今年度は地域のお祭りやイベントへのブース出展を企画している。